



清慎公家集



清慎ら家集

小師宮大政大臣實頼公



庭春の御時 飛香今も 夜不宴 ありふ

うみこころみこころ 嘆息 庭の花 庭のまき 庭のつばき 庭のつばき

天曆の正時 世にのえ 世を流し ありふ

あけふのつばき 庭の花 庭のまき 庭のつばき 庭のつばき

村上清に記す 所はあり 身は ありふ

内侍のつばきのまき ありふ

あけふのつばき 庭の花 庭のまき 庭のつばき 庭のつばき

あけふのつばき 庭の花 庭のまき 庭のつばき 庭のつばき

もろくふのたのむはなすにまふたがふもとのふゆも
人志連絶たのひの年とふはなすもたのむのまふたのひのまうのま

返

かどう誰の志ぶせもふた一日のひのまふたのまふたのま
か

ワ

ふたふたのひの年とふはなすもたのむのまふたのひのまうのま
ふた

ワ

他人のたのむはなすにまふたがふもとのふゆも
か

返

もろくふのたのむはなすにまふたがふもとのふゆも
か

ワ

他人のたのむはなすにまふたがふもとのふゆも
か

むつれらぬも、いづれかめつらき、
あしきな井の川を、

山井もあつらふ、
なつかしく、

返

昔はあつた、
いづれか、

ね

乃のふ有らば、
いづれか、

う

注をよみて、
いづれか、

あ

今よりを、
いづれか、

返

人にあつた、
いづれか、

あ

あつた、
いづれか、

女

あつた、
いづれか、

あ

あつた、
いづれか、

あ

Handwritten cursive text, top line.

—

Handwritten cursive text, second line.

—

Handwritten cursive text, third line.

—

Handwritten cursive text, fourth line.

—

Handwritten cursive text, fifth line.

—

Handwritten cursive text, top line.

—

Handwritten cursive text, second line.

—

Handwritten cursive text, third line.

Handwritten cursive text, fourth line.

—

Handwritten cursive text, fifth line.

Handwritten cursive text, sixth line.

—

いそがしからぬしゝもせせしる衣袂の下ふさもなれ
あしはもあはしゝもせせしる袖も何のあはし
かゝるも

うけはるもあはしゝもせせしるあはし
あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

あはし

人
女

女

女

女

女

女

女

女

女

女

人

女

女

女

女

女

女

女

女

女

杖風の吹くはなからなほあはれなほまじりなほ
女やうらやまのうらやま

花ももろくちかきよはなゆきあはれもろくちか
まじりまじりなほ女花はな風もあはれなほ
又うらやまのうらやま

あはれなほ誰よりあはれなほあはれなほ
女御あはれなほ
福あはれなほあはれなほ

あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ
あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ
あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ

あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ
あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ
あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ

あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ
あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ
あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ

あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ
あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ
あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ

あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ
あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ
あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ

あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ
あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ
あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ

あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ
あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ
あはれなほあはれなほあはれなほあはれなほ

女のついでにうらなひ

宿のついでにうらなひもあつた花のついでにうらなひもあつた
うらなひの花のついでにうらなひもあつた我のついでにうらなひもあつた

女

うらなひのついでにうらなひもあつた花のついでにうらなひもあつた

女

うらなひのついでにうらなひもあつた花のついでにうらなひもあつた

女

うらなひのついでにうらなひもあつた花のついでにうらなひもあつた

女のついでにうらなひ

女

うらなひのついでにうらなひもあつた花のついでにうらなひもあつた

うらなひのついでにうらなひもあつた花のついでにうらなひもあつた

女のついでにうらなひ

うらなひのついでにうらなひもあつた花のついでにうらなひもあつた

女のついでにうらなひ

うらなひのついでにうらなひもあつた花のついでにうらなひもあつた

女

うらなひのついでにうらなひもあつた花のついでにうらなひもあつた

ねあ〜人よはらぬ

いしよきあはらぬ思ひに人よはらぬ花のさかすか
返〜

あはらぬ思ひに人よはらぬ花のさかすか
あはらぬ思ひに人よはらぬ

あはらぬ思ひに人よはらぬ花のさかすか
あはらぬ思ひに人よはらぬ

あはらぬ思ひに人よはらぬ花のさかすか
あはらぬ思ひに人よはらぬ

あはらぬ思ひに人よはらぬ花のさかすか
あはらぬ思ひに人よはらぬ

八月廿一日の日の花のさかすか

あはらぬ思ひに人よはらぬ花のさかすか
あはらぬ思ひに人よはらぬ

あはらぬ思ひに人よはらぬ花のさかすか
あはらぬ思ひに人よはらぬ

あはらぬ思ひに人よはらぬ花のさかすか
あはらぬ思ひに人よはらぬ

あはらぬ思ひに人よはらぬ花のさかすか
あはらぬ思ひに人よはらぬ

あはらぬ思ひに人よはらぬ花のさかすか
あはらぬ思ひに人よはらぬ

あはらぬ思ひに人よはらぬ花のさかすか
あはらぬ思ひに人よはらぬ

あはらぬ思ひに人よはらぬ花のさかすか
あはらぬ思ひに人よはらぬ

あはらぬ思ひに人よはらぬ花のさかすか
あはらぬ思ひに人よはらぬ

花もみぢのうらみはなほさかづけのゆめをいふさき
うらみ

さうらうのうらみはなほさかづけのゆめをいふさき
うらみ

あはれをいふさき
うらみ

あはれをいふさき
うらみ

うらみ

あはれをいふさき
うらみ

あはれをいふさき
うらみ

あはれをいふさき
うらみ

天徳三年九月廿三日召鎮守府將軍仲
舒朝臣贈小祿及馬種物畏入輔之斜壺
之紙手書和哥一首

雲ふり遊ハ舞不お母もあはれうらみをいふさき
三條右大臣定方うせむひて後女御十人あはれ

不堪悲淚聊述恥懷

中々悲鳴人も有る東路不遠も引てと信りしを
一糸一毫もいふもいふはいつに内侍のすめおつる
よもぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
あゝいふ出さういふいふれいふいふ
にねもいふいふは流川流れあはれいふいふいふ
そいふいふいふいふいふいふ

掛衣袋

風の音もいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
初雪

初雪の音もいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
Singing

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
~~~~~

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ  
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ



右指の肉付の...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...



















わ月かむあしんせむの〜せむ〜

二よひ〜むせう〜む田を時を後ふらそと宮かたむた  
女を白河様〜

清みゆきとのなうらうかた花榮をくきたふあ  
女御殿下の京海をならひにふたむせう  
あひまのせむせむせむ〜ちう〜せむせむせむ  
むをくむせむらむせむのむせむ〜せむせむ  
石出ふの〜せむせむ川〜せむせむせむ  
〜せむせむせむせむせむせむ〜せむ  
殿〜せむせむ〜後〜せむ〜せむ〜

涙めおれ〜ぬの〜む物建〜せむせむせむ  
〜せむ〜

清のぬも涙もちるゆき〜せむせむせむ  
な〜せむ〜せむ〜  
揚京ち〜せむせむ〜せむせむせむ  
権申納言の〜せむせむせむせむ  
〜せむ〜

は〜せむ〜せむせむせむせむせむ  
心返〜  
〜せむせむせむせむせむせむせむ







心の苗はつよもつよとてつよとつよとつよとつよと  
あつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよと  
つよとつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよと  
つよとつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよと  
つよとつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよと  
つよとつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよと

つよとつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよと  
つよとつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよと  
つよとつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよと  
つよとつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよと  
つよとつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよと

つよとつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよと  
つよとつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよと  
つよとつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよと  
つよとつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよと  
つよとつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよと

つよとつよとつよとつよとつよとつよとつよとつよと

清慎集予雖秘藏之本任御所望令  
書寫校合進賢候者也尤他見書寫  
被免間敷也穴賢云云

永享二年孟夏下旬 尋阿在判

右清慎集多本世皆有書寫之誤等  
依之難一決併此本吟味校合取々  
隨宣用之亦於正本求者重而可遂



校合者也漏々繁多已

文明五年三月日

藤在判



